文部科学省検定済教科書

|  |  |
| --- | --- |
| ９ | 開隆堂 |
| 情Ⅰ707 | |

令和４年度～　高等学校情報科「情報Ⅰ」

**実践 情報Ⅰ**

この資料は，一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則って作成，配布しております。

**教科書調査研究の観点**

**[観点の要約-実践力を高める]**

単元が１授業時間を想定した見開き（２ページ）のステップになっており，ステップごとに少しずつ高度な内容に取り組むため，ステップアップが実感できる構成になっている。実習例や課題が設定されている単元が多く，実践活動を通して知識を活用することで体験的に学習を深められるよう配慮されている。実践活動は社会でも広く使われているソフトウェアを想定し，社会でも活用できる実践力を育成できるよう配慮されている。

**[観点の要約-学習意欲を誘う工夫]**

各章の扉で関連のある事柄を３コマのイラストでわかりやすく示している，また，各小項目の冒頭には問題提起（投げかけ）の文章が配置されており，生徒が課題意識を持って学習できるように工夫されている。本文は，基礎的・基本的な内容が理解しやすいように敬体表記でかつ平易に表現されている。また，見て，読んで，学習内容や学習過程が分かるように，本文と図版・写真などのバランスに配慮し，かつ図版・写真の表現方法についても工夫されている。

**[観点の要約-問題解決]**

体験的で問題解決的な学習を軸に構成されているため，教育課程がめざす授業が展開しやすい。各小項目は，①興味・関心を喚起し考えるきっかけをつかむ「投げかけ（小項目名横の吹き出し）」による導入，②基礎的・基本的な内容を記述した本文や図表・写真などの資料，③基礎的・基本的な内容を深めるための活動，という問題解決的な学習に対応した流れを基本に構成され，問題解決的な思考が身につくよう配慮されている。

**[観点の要約-無理なく確実な学習を実現]**

全体的に専門的な内容に深入りし過ぎず，イラストを使った解説によって分かりやすく記述されている。また，各小項目は１見開きで1時間を基本にコンパクトかつ論理的にまとめられており，適切な分量で無理のない授業展開ができる。巻頭には，情報Ⅰの学習を始めるためにおさえておきたい資料が掲載されていて，巻末ではソフトウェアの操作方法，プログラミング言語や情報関連法令など，学習や実習をサポートするページが充実している。

**１．内　容**

●１章　情報の表現

・情報という教科を学習する背景や，学習に必要な情報モラルをおさえられるように配慮されている。

・情報を扱うにあたって必要になる基本的な知識や考え方を学習できるよう配慮されている。

・情報を適切に表現し，伝えるための情報デザインの知識や考え方が身につくよう配慮されている。

●２章　コミュニケーション

・コミュニケーションやさまざまなコミュニケーション手段の特徴を理解したうえで，状況に応じて適切な手段を選択する力が身につくように配慮されている。

・問題解決の流れで探究活動を行うことで，問題解決的な思考が身につくよう配慮されている。

・知的財産について，根拠となる法律を学ぶことで情報を活用する態度を養うよう配慮されている。

●３章　モデル化とシミュレーション，プログラミング

・プログラミングを学習する前に，情報のデジタル化やコンピュータの内部でどのように情報が処理されているのかを学ぶことで，科学的な理解に基づいた学習ができるように配慮されている。

・モデル化とシミュレーションについて身近な例から解説し，考え方が理解しやすいよう配慮されている。

・身近なソフトウェアでシミュレーションやプログラミングができるように配慮されている。

●４章　情報通信ネットワークとデータサイエンス

・情報通信ネットワークの基礎的な技術と，安全を守るセキュリティ技術について幅広く取り上げて説明されており，情報社会へ参画する際に必要十分な知識を学べるように配慮されている。

・社会で活用されている情報システムに関して身近な例から理解し，活用できるように配慮されている。

・データを収集・蓄積・処理する手順と，管理するための方法およびそれらを活用するための基本的な考え方について，身近な例から体験的に理解できるように配慮されている。

●終章　未来を考えよう

・情報社会の在り方やそこに内在する課題を取り上げ，情報通信ネットワークや資料などを活用して討議しながら，情報化が社会に及ぼす影響についての認識を深める学習ができる工夫がされている。

・総合実習として，１～４章の学習内容をバランスよく活用できるような実習を配置している。

**２．分量・構成**

●単元が１授業時間を想定した見開き（２ページ）のステップになっており，全体では60のステップで構成されているため，指導計画が立てやすい。

●実習例や課題が設定されている単元が多く，実践活動を通して知識を活用することで体験的に学習を深められるよう配慮されている。

●ステップごとに少しずつ高度な内容に取り組むことで，ステップアップが実感できる構成になっている。

●各小項目は１見開きで1時間を基本にコンパクトかつ論理的にまとめられており，適切な分量で無理のない授業展開ができる。

●各小項目は，①興味・関心を喚起し考えるきっかけをつかむ「投げかけ（小項目名横の吹き出し）」による導入，②基礎的・基本的な内容を記述した本文や図表・写真などの資料，③基礎的・基本的な内容を深めるための活動，という流れを基本に構成され，問題解決的な学習に対応している。

●学習と生活や社会とのつながりが実感できるように，「Look Around」のコーナーが設けられている。

●各章の始めの扉ページでは，親しみやすい３コマ漫画で内容のイメージをつかみながら，めざす姿が示されており，目的意識を持って学習に取り組めるよう配慮されている。

●章末では，「要点の確認」を取り上げ，知識の定着を図ることができるようになっている。

●巻頭には中学校のふり返りやスマートフォンの情報モラルなど，情報Ⅰの学習を始めるためにおさえておきたい資料が掲載されていて，巻末ではソフトウェアの操作方法，プログラミング言語や情報関連法令など，学習や実習をサポートするページが充実している。

**３．表現・表記・使用上の便宜**

●各章の扉で関連のある事柄を３コマのイラストでわかりやすく示すなど，生徒の学習意欲を誘うビジュアルな紙面づくりがされている。

●各小項目の冒頭には問題提起（投げかけ）の文章が配置されており，生徒が課題意識を持って学習できるように，また，教師にとっては動機づけ・意欲づけが図りやすいように工夫されている。

●学習内容の関連が分かるように「Linkマーク」が配置されている。

●QRコードからアクセスすることで関連した情報が表示され，学習に広がりや深みをもたせることができる。

●実践活動は社会でも広く使われているソフトウェアを想定し，社会でも活用できる実践力を育成できるよう配慮している。

●本文は，基礎的・基本的な内容が理解しやすいように敬体表記でかつ平易に表現されている。また，見て，読んで，学習内容や学習過程が分かるように，本文と図版・写真などのバランスに配慮し，かつ図版・写真の表現方法についても工夫されている。

●アルファベットの略号には読み方のルビがふられている。また，何の略称か分かるように用語の下に英語の綴りが記載されている。

**４．その他**

●全体的に専門的な内容に深入りし過ぎず，イラストを使った解説によって分かりやすく記述されている。

●体験的で問題解決的な学習を軸に構成されているため，教育課程がめざす授業が展開しやすい。

●カラーユニバーサルデザインやインクルーシブを意識した本文の行末など，より多くの人が学びやすい工夫がされている。